

淀川流域委員会及び部会（全般）への意見

1) 委員会中における一般聴衆の発言について

第二回委員会において、一般聴衆よりルールを無視した発言が委員会の討議中に行われたことは、一般聴衆の一人として許し難いことであると思っております。これが前例となりルール無視の発言が続くとすれば、情報公開に即した公開による委員会が出来なくなることを認識し反省されるべきであると思っております。

事務局は、委員会討議中における一般聴衆の発言を、再度禁止するよう説明され、発言があった場合には毅然として制止していただくようお願いいたします。

2) 委員会資料の送付について

公開による委員会として、出来るだけ多くの人々に委員会資料を送るという趣旨には賛成しますが、FAXだけでは多くの人々が申し込まれる恐れがあります。

資料はページ数も多く、かなりの費用を要するものと思われます。委員会の一般聴衆は、出席のための交通費を負担して当日の委員会資料を頂くことを考慮すると、FAXでの申込者は送料を負担すべきだと思います（公共費節減のため）。

一方、出来るだけ多くの人々に情報を発信されたいのであれば、委員会資料の要約に委員会資料本文の閲覧場所を添えて送付し、必要な委員会資料本文を選定して郵送料を添えて申し込む様にされた方がよいのではないのでしょうか。

3) 委員会資料の使用用語について

本委員会は一般聴衆も参加されていますので、委員会資料の使用用語は、わかりやすい用語にするか、専門用語に注釈を付けるかご配慮願います。

第二回委員会の例ですが、河道容量については、堤防天端高で流れる流量と説明されましたが、例えば、想定限界流下可能量（他にも良い用語があると思います）の方が一般に理解されやすいかもしれません。なぜ想定限界を付けると言うと、堤防天端高まで洪水位が高まると、波浪等の影響により水防対策を実施しなければ破堤する極めて危険な流下可能量である事をイメージする必要があるからです。

次に降雨倍率の×1.2、×1.5については、なぜ降雨を拡大するのか説明がありませんでした。このままでは、降雨倍率を大きくして、ゼネコンのためにダムや河口堰及び河川改修を行っているという理解されがちです。

多分、実績最大降雨×1.2が、確率で1/150ではないかと思いますが、そのような確率にしなければならない必要性和、先進国の治水の安全度と比べての説明が必要ではないかと思っております。

第3回淀川水系流域委員会を傍聴させていただきましたが、我々庶民には結婚式でさえ手がでないような豪華な会場でびっくりしました。

前回は平日夜7時からということ、サラリーマンなどの傍聴を考慮なさり、交通アクセス等の面からターミナル駅の駅前という条件から、有名ホテルの大広間という選

択となったと解釈しました。

今回の平日の昼間という時間設定は、一般社会人の傍聴にはかなり制約があり、どのようなご判断からこのような時間設定にされたのか疑問を感じますとともに、上記私どもの解釈が誤りであったことを悟りました。

当方としましては、河川の自然環境の保護や沿岸地域の安全面の問題は十分重要性を感じているところではありますが、河川行政においても財政面を重視すべきと考えておりません。

瑣末な問題と思われるかも知れませんが、会場の設定ひとつをとりましても贅沢ではないかと考える姿勢が必要なのではないのでしょうか？

また、民間企業への委託により当委員会が開かれたものであるとの印象を与える効果を狙っておられるように推察されますが、庶務のような職務こそ行政マンのマンパワーを活用すべきであり、受託料が相当高いのが明らかな一流どころのシンクタンクを使うなど私どもには経費の無駄使いとしか思えません。

私どもは流域委員会に大いに期待しております。まだまだ始まったばかりでありますし、運営方法を改めて頂きたくお願い申し上げます。

(このご意見については、庶務より会場選定や開催日時設定の考え方やこれまでの経緯についての説明文を返信しました)